



令和6年1月4日
目黒区立第二上目黒保育園長

新しい年をご家族とともに迎えられたことと思います。

全てのクラスが戸外活動に出掛け、2階の園舎に子どもが一人も居ない時間帯がありました。先程までホールでリズム遊びをしていたクラスも出掛けていき、静まり返った園舎は何だか落ち着きません。そうかと思えば、廊下がとても賑やかな午後の日がありました。子どもたちが民舞の『虎舞』を始めたのです。2歳児クラスが虎の被り物に見立てた井形ブロックを頭にのせ、手作りの太鼓を叩き、4歳児クラスは「とらはどこだとおせおせ～」と大きな布を操ります。虎舞は「虎は一日にして千里(約4千km)行って、千里帰る」ということわざから、無事に帰ることを念じ、東北地方で主に航海の安全に関する信仰として伝承されている踊りです。日頃の遊びに虎舞を取り入れたり、数日前には職員による演舞を観たりしたことが子どもたちの“表現したい”気持ちとなって現れ、クラスを超えて楽しむ時間となりました。遊びも用いる道具も本物である必要はなく、豊かな表現は、身近で慣れ親しんだ物を通して“楽しく、心も体も自由だ”と感じられることによって生まれるのではないかと思います。いったい何人出てきているのかと思うほど賑やかな光景を見ていて、保育園は子どもたちの声が響いてこそだと実感しました。

民舞を全身で表現する子どもたちの姿は、園目標の一つでもある『創造力、表現力のある子ども』を体現しています。楽しさも悲しみも悔しい気持ちも職員がしっかりと受け止め、子どもたちの喜怒哀楽で保育園じゅうがいっぱいになるような毎日にしていきます。本年もどうぞよろしくお願いいたします。



しめ縄作り



2歳児クラス懇談会
1歳児クラス懇談会
0歳児クラス懇談会



新年子ども会
お店屋さんごっこ



元気の源作ります

～調理～

食育活動の一環として、ひまわり組で“りんごの皮むき”を行いました。「りんごって人間が食べた果物の中で一番古いんだよ」とりんごにまつわる話をしたり「ひまわり組では1個のりんごが何人分になるでしょうか」「りんごは何種類あるでしょうか」とクイズを出しました。「半分にするから2個になって…」「えっと…100種類かな」と子どもたちは真剣に考えていました。1個を6等分にする事や、りんごは世界中に1万5千種もあることを教えると「へえ～」と驚いた反応でした。りんごのてっぺんから包丁でクルクルと皮をむき6等分にしてみせると「すごく上手だね」と感心していました。

普段何気なく食べている食材も、調理に携わる職員の顔が見えることで一層美味しさを感じられるようです。これからも子どもたちと触れ合いながら『楽しく食べること』につながるような食育活動に関わっていきます。



夢中になれる、一緒に楽しめる

さくらぐみ（3歳児クラス）

友達とごっこ遊びを楽しんでいます。お店屋さんごっこでは、パン屋さんにケーキ屋さん、レストランと様々で「今日はパン屋さんにしよう」と意見が一致すると、パンを作る人、会計する人と役割を決めて開店準備です。お手玉にフェルト布を巻いてメロンパンに見立てたり、クリームやジャムのイメージでチェーンリングを挟んだりしてサンドイッチを作っています。友達が買いに来ると「いらっしゃいませ」と笑顔で迎え「これは甘くて、こっちは少し辛いです」「このパンがおいしいですよ」とおすすめのパンを紹介し、選んでもらえると嬉しそうです。「300円になります」「はい どうぞ」とパンだけでなくお金のやり取りもしながら『売る』『買う』のイメージを遊びで再現しています。

ごっこ遊びのやり取りを通して友達とイメージを共有し、一緒に遊ぶ楽しさを感じられるように、保育士も遊びに加わりながら子どもたちの“～のつもり”と一緒に楽しめます。



すみれぐみ（4歳児クラス）

児童遊園に行くと最初に『だるまさんがころんだ』を楽しんでいます。「だるまさんがころんだ」の掛け声のテンポやリズムを変え、いろんなバージョンで言えることに魅力を感じて“鬼になりたい”と思い、逃げずに捕まろうとする子がいました。すると周りの友達から「わざと動くのはダメだよ」「それじゃ つまらないよ」という意見が出ました。そこで、どうしたら皆で楽しく遊べるか一緒に考えた結果、鬼にならなかった人がチャンピオンというルールに決まりました。本来のルールとは異なりますが、すみれぐみ特別ルールで再開したところ「絶対に動かないぞ」と石のように固まる子と、少しの動きも見逃さない鬼の接戦が繰り広げられました。静止のポーズも寝転がったり片足をあげていたりして、個性あふれる『だるまさんがころんだ』を楽しんでいます。

楽しく遊べる方法を友達や保育士と一緒に考える過程で、ルールを守る大切さにも気付いています。自分の思いを伝えたり、友達の思いにも耳を傾けたりすることを日々の遊びの中で経験できるように関わっています。

ひまわりぐみ（5歳児クラス）

ドッジボールを始めた当初は、コートの一か所に固まってボールが来ると一斉に逃げていました。ゲームの経験を重ねるうち、その逃げ方ではボールがよく見え、かえって当たりやすく転びやすいことを学んだ子どもたちは「人がいない所に居る方がいいかもしれない」と、コートの中での位置取りが大切だと気付きました。ボールもやみくもに投げては当たらず「足を狙うと当たりやすいよ」とアドバイスする姿も見られるようになりました。「こっちにちょうだい」「パス パス」と外野の仲間にボールを回して内野を翻弄するなど、勝つための戦術を考えながら楽しんでいます。勝敗がつき、勝利に大喜びしている友達に「こっちは負けているんだから そんなに喜ばないよ」と悔しい気持ちをぶつける姿もあります。そんな時、チームの仲間から「悔しいね、次は頑張ろう」と気持ちに寄り添ってもらおうと、涙を拭いて次の試合へと向かえるようになりました。

自分の意見を述べ、友達の気持ちにも思いを巡らせ、時に譲り合いながら遊びを進めています。ドッジボールを通して友達との話し合いや励まし合い、協力し合うことを経験しながら楽しさや喜びを感じています。

